

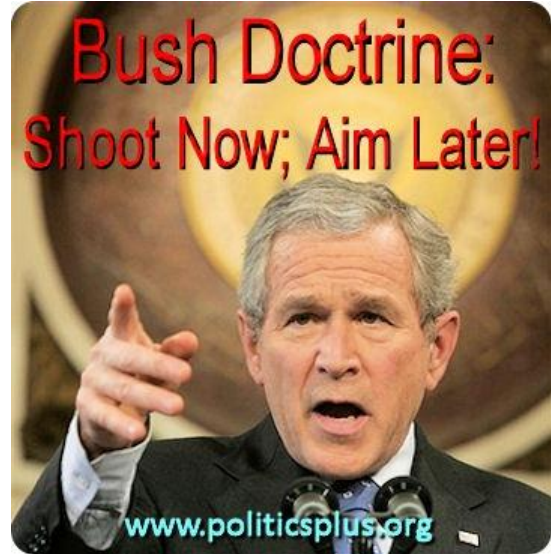
恐怖による攻撃のレベルは集団アイデンティティに影響されない

Simunovic, D., Mifune, N., & Yamagishi, T. (2013). Preemptive strike: An experimental study of fear-based aggression. *Journal of Experimental Social Psychology*, 49, 1120-1123.

単に相手が先制攻撃の能力を持っているだけで、参加者のかなりの割合の人々が、相手から攻撃される脅威を取り除くために先制攻撃をすることが判明した。このような反応は、参加者に、他の参加者を攻撃するいかなる誘因もないときでさえ起こった。

この場合の先制攻撃 → 恐怖に基づく攻撃
= **Bush Doctrine**

「脅威が完全に具体化するまで待っていれば、手遅れになってしまうだろう…我々の安全保障のために、我々の自由を守り、我々の生命を守るために必要であれば、先制的行動を前向きかつ決然と準備する必要がある」

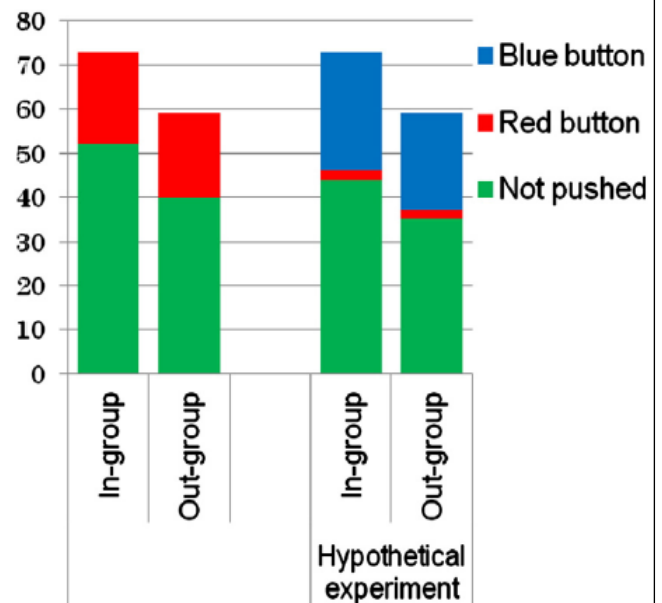


先制攻撃ゲーム



2人の参加者にそれぞれ 1500 円が与えられる。そしてそれぞれ独立に、「ボタンを押すかどうか」を決定する。ボタンを押した参加者は 100 円を失い、相手に 1000 円の損害を与える。相手に先にボタンを押された参加者は、ボタンを押すことができなくなる。1 分以内にいずれもボタンを押さなければ、互いに 1500 円を持って帰ることができる。

参加者が自分の利益を犠牲にしてまで先制攻撃をする率は、相手が(最少条件集団として設定された)内集団の人間であるか外集団の人間であるかには影響されなかった。



左の棒グラフは実際に実施した実験。右の棒グラフは、赤ボタンのほかに青ボタンが存在するとしたら、どちらのボタンを押すかをたずねた仮想実験。

赤のボタン: 100 円を支払って相手の 1000 円を失わせることができる。同時に、相手がボタンを押せなくなる。

青のボタン: 100 円を支払うが、相手のお金が失われることはない。ただし、相手がボタンを押せなくなる。